

2019年1月発行

茨木御堂  
第263号



真宗大谷派

 茨木別院

(輪番 高木 文善)

〒567-0817 茨木市別院町3-31  
TEL (072) 622-2903  
FAX (072) 625-9445

法語カレンダー  
1月のことば

如來誓願の薬はよく智愚の毒を滅するなり

# 報恩感謝

去る十一月十四日から十六日まで無事今年の報恩講が厳修されました。まさに「報恩感謝」の御佛事でありました。ご門徒の皆様や崇敬のご寺院、その他関係する皆様方が、厚いお心をお運びくださった賜と心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、「報恩感謝」という言葉は、私たちの日常生活にしっかりと定着していますが、どう受け止めるのかとなると、少々面倒なことになるのではないかと思います。私の「機」と仏さまの「法」が一体とならなければなりません。次に一例をあげて話をすすめたいと思います。

私の母は夫(私の父)を先の戦争で亡くしました。三人の子どもと義母を抱えた生活は、戦後の混乱期だけに想像を絶するものがあつたのです。義母との関係もうまくいってませんでした。それでも夫との最後の別れの時、「母と三人の子どものことをよろしく頼む」の父のひと言と、培った夫婦の絆を大切に秘めて必死に生きていました。ある日、義母のひとことで生きる望みの全てを奪い取られたのです。

「あの子(父のこと)はお前なんかちつとも好きではなかった。静(父の先妻で義母の姪)の方が好きやった。」と。その時母は目の前が真っ暗になったそうです。「頼む」と言われたそのひとことと絆を唯一の生きる望み

として必死に生きてきたのに・・・二人の激しい言い争いの果ては、義母は「お前なんか子どもを連れて出て行け!」と。母は「出て行きます!」となつてしまいました。

母は夢遊病者のように私たち子どもの手を引いてさまよい歩いていました。琵琶湖の畔まで来て、松林の切り株にじっと座って何時間も考え込んでいました。突然私たちの手を取り、引きずるようにして歩き出し、気がついたときはもう水際だったのです。びっくりした私たちはとつさに母の手を反対の方に必死に引っ張っていました。「おかあちゃん、どこへ行くの!」を何度も繰り返しながら。引き戻された母はその場に倒れ込み、私たち子どもを抱きしめてオイオイと泣きくずれていました。

何年か経つてから、母が言いました。あのとときの「おかあちゃん、どこへ行くの!」の声はまさに仏さまの声だったと。どんなに辛いからと言っても、子どもを道ずれに自らの命を絶とうとする母に、「あなたはそれで間違つてはいませんか」との仏さまの声が聞こえたと言います。つまり自分のことしか考えていなかった身勝手さ、その愚かな心の底をいかなんか暴かれた驚きが翻つて。「仏さま よくぞお教え下さいました」と、自分の器量では決して気づけないこの事実、心の底から「ありがとうございますことだと思ひます。そして自分の事しか考えてなかった身勝手さ、その愚かな心の底をいかなんか暴かれたのが「機」で、気づかせたのは「法」であります。

南無阿弥陀仏(輪番)

真宗教団連合ホームページ

<http://www.shin.gr.jp/>

真宗教団連合

検索

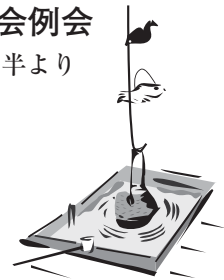
茨木別院関連ホームページ

茨木別院 ➔ [ibarakibetsuin.or.jp](http://ibarakibetsuin.or.jp)

いばらき大谷学園 ➔ [ibarakibetsuin.or.jp/kids/](http://ibarakibetsuin.or.jp/kids/)

# 茨木別院 行事ご案内

1月	2月
<ul style="list-style-type: none"> <li>●修正会 (しゅしょうえ) 日時 元日(火) 午前0時より 会場 別院本堂</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教如上人ご命日・同朋会 (どうぼうかい) 日時 5日(火) 午後1時半より 別院会館にて 講師 加藤 恵氏</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●本山九日講初講・九日講総会 日時 9日(水) 午前10時半より 会 所 別院本堂 講 師 真宗大谷派参務 ※初講に引き続き総会を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●みほとけの歌の会 日時 11日(月) 午後1時半より 会 場 別院会館</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●親鸞聖人ご命日・ 婦人会報恩講と新年の集い 日時 28日(月) 午前10時より 別院会館にて 講 師 茨木別院輪番 ※法話後、新年会 (お斎接待)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●親鸞聖人ご命日・婦人会例会 日時 28日(木) 午後1時半より 別院会館にて 講 師 茨木別院輪番</li> </ul>



● 月忌参りお休みのお知らせ ●  
**1月1日(火) から 5日(土) の月忌参りは、お休みさせていただきます。**



● お斎の接待を行ないますので参加御希望の方は、別院事務所までご連絡ください。

☎〇七二一六二二一〇三

一月の九日講は茨木別院を会所に参務をお迎えし勤まります。

初講に引き続き総会を開催しますので是非ご参加下さい。

**日時** 一月九日(水) 午前十時より

**会 所** 茨木別院本堂

**講 師** 真宗大谷派参務

**婦人会報恩講と新年の集い**

左記の通り婦人会報恩講を勤めます。

報恩講のお勤め後、輪番よりご法話があります。

報恩講に引き続き新年の集い(お斎接待)を開催します。

有縁の方々のお参りをお待ちしております。

**日時** 一月二十八日(月) 午前十時より

**場 所** 茨木別院会館

**講 師** 茨木別院輪番



## 園長の一言

### ●湧き出するもの

今から三十五年ほど前、保育の新しい理念が模索されていた時期でもありました。そのころ私の関心ごとであった、「子どもの主体性を伸ばす保育のためのカリキュラム作り」というタイトルで、ある全国組織の研修会があり、どうしても参加したいと思い東京まで出向きました。ところが講義を聞いているうちに、なんだか期待していたこととかなり隔たりがあることに不満がつのり、思いあまつて質問しました。「子どもの内発するもの（子どもが何かに触発されて内から湧き上がってくる力）を最も大切にする保育ということがありますが、そのことをいかがお考えでしょうか」と。返ってきた答えが、「最近自由保育ということがさかんにもてはやされているが、子どもを自由に放任しておくことが子どもが育つわけではありません。」というのが講師先生の言い分でありました。さらにそのあとの分散会では、講師先生を擁護するかのごとく、私一人に非難が集中したことも忘れられません。その講師先生は、当時文部省の保育の審議会のメンバーでもあり、日本の幼児教育界の指導的立場に立つ方々のうちの一人でもありましたのでそんなことになったのだと理解もしました。それよりも残念だったことは、「子どもの内発するものを大切に『保育』という自由保育が子どもを自由放任にしていると決めつけられたことでした。」

私は今でも信じて疑わないのですが、子どものみならず人間すべて、興味・関心に触発されて内から湧き上がってくる意欲とか勇氣なるものほど確かなもの（真実）はないと思っています。まさに誰かから教わったものでもなく、又強制されたものでもありません。その意味では私たちの体の奥底に脈々と流れている純粋なものといわざるを得ません。何らかの環境（縁）に出会って湧き上がってきたものは、世間でいう善でも悪でも

ありません。純粋そのものとしか言いようがありません。子どもにとっては何物にも代えがたい宝物だと信じます。

保育の現場では、子どもたちは毎日毎日次から次へと、内から湧き上がるものを見せつけてくれます。具体的に言えば、深々とした興味、とりついて離れない関心、それに持っているものを離しても、興味関心に触れたことをやりたいという意欲をもって、内から湧き上がってくるものを見せつけてくれるものです。

子どもを信じなさいとよく言います。実際子どもをしている行動や口で言っていることはなかなか信じがたいものがあるかもしれません。ここではそんなことを信じなさいと言っているわけではありません。何かに触発されて湧き上がってくるものによって行動や言動に意欲を発揮する、素晴らしいことではありませんか。子どもを信じるとは、どの子にもそんな素晴らしいものがあるかと心の奥底に脈々と流れている事実を信じるといふことです。そのところを最高度に信ずるといふ立場を根底において営む保育が私は自由保育だといいたいのです。しかし子どもがそういう意欲をもって取り組むこととして、そんなに数多くあるわけではありません。けれども子どもは「遊び」の中でその触発されるものに出会っていくのです。少なくとも大人が決めた制約の中での限られた活動ではなかなか出会うことができないと思います。してみると制約のない自由な「遊び」を中心とした活動の中でこそ出会うことが沢山あり触発されることも多いと考えると、「遊び」を中心とした保育・子育てが実に有効になってくることは論をまちません。こういう保育のことを世間では俗にあそび保育と言っています。もう一度確かめておきますが、遊び保育（真の自由保育）だからといいましても、決して子どもを自由に放任することではありません。

園長（高木文善）

教如上人 御命日・同朋会

# 「歎異抄に学ぶ」

『歎異抄』をとおして、親鸞聖人の声に聞いていきましょう

- 『歎異抄』を読む人のために

私たちは、(中略)この『歎異抄』を読むこと  
をとおして、生きた親鸞聖人にお会いする道  
をいただくことができます。

寺川俊昭師・『歎異抄』東本願寺出版より

茨木別院開創の教如上人の御命日を機縁とし、同朋会を  
開催しています。現在、『歎異抄』をテーマに共に学びを進  
めています。

どなたでもお気軽に参加いただけます。有縁の方々のご  
参加をお待ちしております。

## 参加無料

日程 毎月5日 [午後1時半から午後3時頃まで]

会場 茨木別院会館

講師 加藤 恵氏 (教圓寺住職)

## 除夜の鐘撞きについて

平成三十年度の鐘撞きについて鐘樓の安全が確認されていない為、  
中止させていただきまます。ご了承くださいますようお願い  
申し上げます。

尚、元日の修正会については、午前0時よりお勤めいたします。  
是非ご参詣下さい。

## 茨木別院年間行事予定表

	修正会	7月	暁天講座
1月	本山九日講初講 婦人会報恩講・新年の集い	8月	お盆墓法要 盂蘭盆会
3月	春季彼岸会	9月	秋季彼岸会
5月	永代経法要	11月	報恩講
6月	本山九日講 茨木別院門徒会	12月	除夜の鐘
	合同研修旅行		



# 二〇一九年年回表

一周忌

平成三十年亡

三回忌

平成二十九年亡

七回忌

平成二十五年亡

十三回忌

平成十九年亡

十七回忌

平成十五年亡

二十五回忌

平成七年亡

三十三回忌

昭和六十二年亡

五十回忌

昭和四十五年亡

百回忌

大正九年亡

## 敬 弔

ご生前のご遺徳を偲び、謹んで哀悼の意を表します。(敬称略)

記

法名 釋清法  
俗名 畑清介 八十三歳

法名 釋淨章  
俗名 中山章 九十九歳

法名 心光院釋尼文華  
俗名 坂文字 九十二歳

法名 釋尼妙智  
俗名 濱口美智子 八十四歳

## 年 忌 法 要 は、

なるべく二ヶ月前までに  
御來院いただいで日時等  
ご相談下さい。

## 編 集 後 記

今年(2019年)は修正会を元日の午前0時よりお勤め致します。新年の始まりをお寺でお迎えされませんか。たくさんの方のお参りをお待ちしております。

岡崎 康祐

私たちは、終り(期限)や変化を目の当たりにすると、普段気にもかけなかった物事で、今更けに以上(以上)に大事に扱って、惜しむことがあるのではないだろうか。「日暮らし」で、きりぎりすを感じ、新年を迎えさせていたいただきます。

墨林 尚顕

地震、台風と昨年は多くの災害に見舞われた年でした。幸い本堂の内陣・外陣の被害についてはなんとか報恩講を勤めることができ、状態でした。今年も例年通りに法要をお勤めできることを思います。どうぞ本年もよろしくお願い致します。

竹内 明人

## 株式会社 花 廣

— 生花・供花・けいこ花 —  
茨木市大手町一二二八  
☎(072)622-2401